

第3回 横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会 会議録	
日 時	平成27年11月25日(水) 午後1時30分～午後4時
開催場所	港北区役所4階 特別会議室
出席者	<p><b>【委員】</b>  間瀬勝一委員長、山本貞副委員長、和泉利政委員、稲田奈緒美委員、恵志美奈子委員、大谷宗弘委員、岡本直美委員、木村江里委員、砂川由利子委員、砂田俊彦委員、平井誠二委員、村上テル子委員(委員は五十音順)</p> <p><b>【事務局】</b>  港北区長、港北区副区長、港北区区政推進課長、港北区地域振興課長、文化観光局文化振興課長、有限会社空間創造研究所 ほか関係職員</p>
欠席者	なし
開催形態	公開(傍聴者1名)
議題	1. 第2回委員会会議録の確認について 2. 区民文化センターニュース 第3号の発行について 3. 答申(たたき台)に関する意見交換
決定事項	本日出された各委員の意見を事務局にてまとめ、答申(案)を作成し、次回委員会にて示す。
議事	<p><b>開会</b></p> <p>(間瀬委員長) それでは、定刻となったので、ただいまより「第2回横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会」を始める。</p> <p>議事に入る前に、条例に基づく定足数の確認について事務局より報告をお願いしたい。</p> <p>(事務局) 「横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会条例」の第6条第2項に「委員会は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない。」と定められている。本日の出席委員数は、現在定数12人のうち12人である。</p> <p>よって、出席委員数は半数以上で、本会が成立していることを報告する。</p> <p>なお、本会議については原則公開と定められているが、本日は傍聴人が1人いらしているのので御了承いただきたい。</p>

(間瀬委員長) ただいま報告のとおり、条例に基づき委員会が成立していることが確認できたので議事に入る。

### **1. 第2回委員会会議録の確認について**

(事務局) 資料2について説明

(間瀬委員長) ただいまの説明について御異議・御質問等はないか。

(委員) 発声なし

(間瀬委員長) 各委員に承認を頂いたので、第2回会議録を確定とする。公開の手続きをお願いしたい。

### **2. 区民文化センターニュース 第3号の発行について**

(事務局) 資料3について説明

(間瀬委員長) ただいまの説明について御異議・御質問等はないか。

(委員) 発声なし

(間瀬委員長) 区民文化センターニュース第3号を事務局説明のとおり確定とする。第3号発行の手続きをお願いしたい。

### **3. 答申(たたき台)に関する意見交換**

(平井委員) 資料4中、基本理念について説明

(山本委員) 基本理念のコンセプトは良いと思う。だが、「桃源郷」という言葉が区民文化センターに適したものかは疑問に感じる。ピンク色は、いまひとつ締まらない印象がある。

(恵志委員) このキャッチフレーズは開館後もずっと使うのか。それとも計画段階でしか使わないものなのか。「どういう区民文化センターか」をひとことで表すキャッチコピーだ

	<p>と良いと思う。</p> <p>ART と HEART をかけているのは面白いが、ピンク色の印象が強く、キャッチコピーが長持ちしない印象をうけた。歴史的な背景や、どういう施設でありたいか十分調査されているのは良いと思う。</p>
(稲田委員)	<p>地域のアイデンティティーが現れていて良いと思った。地域社会をつくる拠点になってほしいとの願いと愛着をこめたのは素晴らしい。</p> <p>ただし、キャッチコピーとピンク色については再考してはどうか。キャッチコピーはポスターなどで多くの場所に拡散されるので、ピンク色に抵抗を感じる世代もいるのではないかと懸念する。</p>
(砂田委員)	<p>基本理念が具体的な運用にどう関わってくるかが理解できていない。</p> <p>港北区には伝統文化がある。また、クラシック音楽はいまや新しい日本の伝統にもなりつつある。伝統を守り、新しいものと一緒に発信していくという内容があるといいかと思う。</p> <p>桃源郷という言葉には抵抗を感じる部分がある。</p>
(村上委員)	<p>綱島周辺の歴史は、地元の方ならわかるが、港北全体には伝わらないこともあるかもしれない。また、綱島を中心に書かれているので、港北全体を見たキャッチフレーズにしたほうが良いのではないか。</p>
(岡本委員)	<p>若い世代は桃源郷や、綱島に温泉があったことなどを知らないで直感的に理解できないのではないか。また、ピンクの印象が強すぎるかと思う。</p> <p>港北区では他に氷作りなども行われていたので、綱島周辺だけでなく、区全体を見渡したほうが良いのではないか。</p>
(木村委員)	<p>港北区に住んで 15 年になるが、桃の産地や温泉地だったことはこの文章を読んで知った。港北区には他の地域</p>

	<p>から引っ越してきた世帯が多いため、地域の歴史をご存じない方も多いかと思う。HEARTとARTをかけるのはよいが、「桃源郷」は、最近の方々には馴染みが無いのではないか。</p> <p>(砂川委員) 桃源郷というと、まず中国の文学作品の桃源郷を思い浮かべる。これから綱島周辺が変わっていくということで、もっと未来的な形の言葉でもいいのではないか。</p> <p>(大谷委員) 大変綱島の歴史を感じさせる文章になっている。「桃源郷」という言葉だが、「HEARTでつながる私たちの桃源郷」の部分だけは再考してはどうかと思う。</p> <p>綱島は昔、温泉街であり、多くの芸者がいた。今の綱島は昔からは考えられないほど様変わりした。世代によっては、昔の歴史を快く思わない方もいる。</p> <p>「桃源郷」という言葉にはロマンや歴史も感じる反面、「桃源郷」という言葉がアートにつながるということに若干抵抗がある。例えば、「HEARTでつながる私たちの文化村」などにすれば、一般的に幅広い支持が得られるのではないか。「桃源郷」という言葉を中心にする、港北区ではなく綱島が中心の施設という印象を受けるかもしれない。</p> <p>(和泉委員) 「桃源郷」という言葉は、港北ではなく綱島の施設という印象を受ける。</p> <p>歴史を辿るとなると色々難しいが、昔の歴史を並べても今の時代とはそぐわない。基本理念の文章については素晴らしいが、ピンクは再考いただきたい。</p> <p>(間瀬委員長) 「桃源郷」という言葉のイメージが、皆さんの中にはっきりとある。キャッチフレーズの「桃源郷」を変更すれば、説明文の中に「桃源郷」という言葉が入っていてもいいのではないか。</p> <p>このキャッチコピーがどの程度使われるかということについてだが、おそらく開館記念からしばらくは、施設のキャッチコピーとして表に出るだろう。永遠とは続か</p>
--	--

	<p>ないと思うが、施設が開館し、地域と一緒に活動を続けるなかで、次の新たなテーマが出てくるかもしれない。</p>
(平井委員)	<p>当初は、「桃源郷」という言葉を変えようと考えていた。桃源郷を横文字にすると「ユートピア」や「シャングリラ」という言葉になるが、しっくりしなく、上手く言葉を変えられなかった部分がある。もっとよい表現があれば、キャッチコピーを変えるのはやぶさかではない。</p> <p>キャッチコピーを考える上で、港北区らしさをひとことで表す言葉が難しいと感じた。いい言葉があれば皆さんから出していただければありがたい。</p>
(間瀬委員長)	<p>例えば、「HEART でつながる私たちのまち」でもよいかと思う。具体は下に説明文として示してはどうか。各委員にはアイデアがあれば事務局に出していただき、平井先生にまとめをお願いしたい。</p>
(事務局)	<p>資料4中、基本理念実現の方針・文化事業展開・施設運営について説明</p>
(間瀬委員長)	<p>この答申は、指定管理者にも示すことになる。最終的には施設運営の指針のような扱いになるだろう。皆さんからご意見をいただきながら手を加えていきたい。</p>
(和泉委員)	<p>内容としてはかなりまとまっはいると思う。私は自分で文化活動をしていないので、具体的な部分については判断が難しい。</p>
(間瀬委員長)	<p>自治会・町内会や商店街などとの連携なども書かれているがいかがか。</p>
(和泉委員)	<p>自治会・町内会や商店街との連携と書かれているが、すぐに具体的な催しは浮かばない。</p>
(大谷委員)	<p>「つなぐ」、「育む」、とあるので、更に「届く」ということが入ればよいのではないか。</p>

	<p>文化事業展開についてはこれでよいかと思う。</p> <p>施設運営についてもよいかと思う。あまり難しく書くと、実現するに際してかえって難しさが出るので、この程度を示せば良いと思う。</p>
(平井委員)	<p>区内には港北公会堂や各地の地区センターなど、文化事業に関わってきた施設がいくつかあるが、区民文化センターとそれらの施設が違う一番大きな点は、活動支援を行うということである。区民文化センターは諸室を貸すという事が基本だが、貸館にとどまらず積極的に区民の活動支援を行うことが大切な部分になる。既存施設とは違う部分を強調してもよいかと思った。</p>
(砂川委員)	<p>ここに書かれていることが 100%実現できれば素晴らしいが、そのためには人材が必要である。区民文化センターにどれだけの人に関わるかという部分が難しいと思う。</p>
(木村委員)	<p>これだけの文化事業を展開するためには人の力が必要となる。区民の皆さんは様々な活動をされており、それぞれに得意分野がある。力となってくれる人をどれだけ巻き込んでいけるかがポイントになると思う。</p> <p>区民の活動をホールの自主事業として取り上げる機会があるとよい。自分たちの活動を区民文化センターの自主事業として公募できるチャンスが広く周知されたら、様々なジャンルの企画を作りあげていけるのではないか。自主事業を全て指定管理者が決めるのではなく、区民公募的な要素を組み込んでいただきたい。</p>
(岡本委員)	<p>ここに示されている事業が全て実現できたら良いと思うが、どの事業者が指定管理者となるかが問題である。どのような事業を行うかの企画提案会が、市民が参加できるオープンな場としてあればいいかと思う。指定管理者の選定が最も重要な部分だと感じている。</p>
(村上委員)	<p>区民の活動も、舞踊やダンスなど様々なジャンルがあ</p>

	<p>る。ホール職員には、総合的に判断出来る人が来ていた だかないとならない。そのような人がいてくだされば、 区民活動の助けにもなるだろう。全てに長けている人が 運営組織内に居ればよいが、この分野は詳しいがこっちは 詳しくない、ということになると困る。</p> <p>諸室の貸出料金も、皆が利用できる範囲で、無理のない 設定をしていただきたい。</p> <p>(砂田委員) 「つなぐ」という部分の、「普段着」というワードが良 いと思う。私たちも「下駄履きコンサート」と称して、気 軽に来られるコンサートを実施している。</p> <p>みなとみらいホールは、建設当初はアマチュア音楽の 殿堂を目指す方針もあったと聞いているが、指定管理者 が事業拡張を考え諸外国の有名楽団のコンサート積極的 に行うようになり、アマチュア利用が難しくなった。今 ではシーズンオフを選んで利用申込みをしてもなかなか 抽選があたりず、市民演奏家には厳しい方向になってい る。</p> <p>このホールは区民の参加が基本である。事業として高 いチケットを売れば採算がとれるのかもしれないが、区 民が身近な場所として色々と活動できる場としては、こ の方針でよいのではないか。</p> <p>(稲田委員) 誰がこの答申を読むのかを考えた。区民文化センター ニュースや区の広報をみた一般の方が読むのが、「Ⅰ基本 理念」と「Ⅱ実現の方針」の部分だろう。「Ⅳ施設構成」 は、利用を検討される方が読むのがメインになると思う。 まずは、ⅠとⅡをどう示すかが重要なのではないか。</p> <p>答申などの文章に横文字がくるのはあまり好ましく無 いと思う。例えば、網目が張り巡らされているような イラストを描くのも一つの手段かと思う。また、飛び交 い、繋がるイメージがロゴと一緒にあっても良いと思う。 例えば「フェイス・トゥ・フェイス」は「顔が見える」と いう表現でよいのではないか。</p> <p>文化事業展開の部分は、全国で注目されている事業は ほとんど網羅されているのでよいと思う。</p>
--	---

	<p>「届ける、届く」という意味合いが、もう少し入るとよい。ただし、あまり「届ける」というイメージが強くなると、「やってくれるのを待っている」、「どうしてここではやらないのか」、となってしまう恐れがあるので、「届けようとしている」というイメージが入れられればよいのではないか。</p> <p>(恵志委員) 「つなぐ」、「育む」といったキーワードが施設提供や自主事業に書かれているが、具体的に施設運営において、誰が「つなぎ」、誰が「育む」のかが見えにくい。</p> <p>違和感があるのは、この答申では「つなぐ」の場合、区民が主体で「つなぐ」ように読めるが、「育む」のは区民文化センターが主体となっている部分だ。動詞の主体がどこにあるのかが曖昧になっている。また、実際にセンターを運営するのは、総体としての組織ではなく、そこで働いている人たちだ。誰がどう関与しているセンターなのか、イメージしながら答申を作成することが必要なのではないか。</p> <p>書かれている文化事業展開が全部できたら素晴らしいが、事業面、技術面ともに全てに専門知識を有して企画運営・施設管理ができる人材を見つけるのはなかなか難しい。これだけのことを実行するための専門人材をどうするのか、例えば事業企画運営と施設管理などで指定管理者の業務を分割する必要がある可能性もあるのではないか。また、これだけのことを指定管理者に委託するのに、区は予算をどれだけつけられるのか。希望を理想として挙げることは素晴らしいが、実現するのは簡単ではない。予算が無いのならば、その中でできるのはどの形かと考えることも必要かと思う。</p> <p>事業の一部は、区民の皆さんと一緒に考えるやり方もある。この場にも既に「市民参加型」の事業を企画されている方がいらっしゃる。新しいことを始めるばかりではなく、既に実現できていることをいかに生かすかを考えるような市民協働も想定すると良いのではないか。</p> <p>(山本委員) 「つなぐ」はフラットだが、「育む」は誰かの世話にな</p>
--	---



る、というイメージがある。「育む」というコンセプトで考えると抵抗がある部分もある、語感的な部分で「育む」は避けたほうがいいように思う、フラットの関係でなければならない。区民の自主的な要素がどれだけ反映できるかが重要である。

国立新美術館は施設のほとんどが貸諸室である。建設当初は「コレクションを持たない美術館はどうか」という批判があったが、今は展示室のうちひとつを自主企画用の会場としている。施設を貸すということは賃貸住宅の大家と同じなので、無性格になる。空間を市民に開放し、自由に利用してもらうことは基本だが、単なる貸会場になってしまうとつまらない。

指定管理者がどれだけ自由に事業を行うかもわからない。指定管理者をどう選定するかの問題と、ホールの自主企画とのバランスは必要となる。

ホールの印象は、市民の活動で段々と決まっていく。上から目線で決めたものでイメージが固まるのは避けたほうがよい。指定管理者の事業と区から指定する事業の比率はバランスを考える必要がある。また、いかに素人が活躍できる場を保てるかは重要と思う。

(間瀬委員長)

横浜市の場合、全市的な文化施設における指定管理者の選定基準に則ることになるだろう。市が年4回程度、様々な不具合やバランスをチェックすることも決められている。区民文化センターとしての機能をしっかりと果たせる体制が保てるかということではないか。問題は、市の職員は異動があるということである。指定管理期間の5年間で同じ職員が経過を見られる保証はない。評価制度をシステムとしてしっかりと構築しなければならない。

私自身が指定管理者を選定するという立場もいくつか経験したことがある。私は、実施方針と事業展開をどう表現しているかを最も重視して評価を行う。指定管理者となった後の評価は行政の役割となる。その評価をどうするかは、前向きに検討していただきたい。

ここに書かれている事業を全部実施するならば、少な

	<p>くとも事業担当者は6～8人、全て含め15人程度は職員数がないと無理だと思うが、実態としてはそれだけの人数の職員がいる区民文化センターは無いだろう。これは区の予算の問題である。</p> <p>次のステップは、市民がどう運営に参加するかだと思う。</p> <p>いくつかのご意見をいただいたので、手直ししていただき、次回に最終版を示していただきたい。</p> <p>(休憩)</p>
(間瀬委員長)	<p>会議を再開する。</p> <p>引き続き、答申(たたき台)の施設構成の部分の説明を事務局にお願いしたい。</p>
(事務局)	<p>資料4中、施設構成について説明</p>
(山本委員)	<p>施設周辺の植栽に配慮する旨を追記していただきたい。綱島は緑が少ない地域なので、今の段階から施設の入口などに大きな木を植えることを示すなどは、施設イメージの上で重要である。</p> <p>施設の内容については各諸室について色々と示されているが、このような形で実現できれば理想だと思う。</p>
(恵志委員)	<p>図書館との連携は良いと思う。前回の委員会で意見として出されたことは概ね盛り込まれている。あとは、実際に図面を見ないと検討が難しい。</p> <p>練習室の部分に「音楽練習に対応した楽器類」とあるが、これはヴァイオリンやクラリネットなどの楽器を指しているのか。</p>
(事務局)	<p>基本的にはピアノと、バンド演奏に必要なドラムなどの楽器程度を想定している。</p>
(恵志委員)	<p>「楽器類」という表記がどんな楽器を想定しているかが気にかかった。</p>

	<p>私は、バンド練習用の楽器はあまり必要ないのではと思う。また、スペースに限りがあることを考えると、民間が供給できるような小さな練習室より、少し大きめでクラシックの練習などが可能なスペースを設ける方がよいと思う。</p>
(間瀬委員長)	<p>今までの区民文化センターでは、練習室が3部屋あるとすると、うち1室はセミコンのグランドピアノなどが置いてあるクラシック用の練習室。あとの2室がドラム、ギター、ベース、キーボード、アンプなどを備えたバンド練習室といった構成だろう。バンド練習室を備えるメリットは、高校生や大学生などの若者が頻繁に施設を利用してくれることである。ただし、駅の近くに楽器屋があり、そこがスタジオを経営しているなどの場合は、区民文化センターにもバンド練習室を備えると民業圧迫になるので、縮小することは必要かもしれない。地域の立地の中でどうするかを考えることが必要となる。今は、大学でもクラシックの練習用の部屋は人気があり、利用が難しいらしい。</p>
(山本委員)	<p>練習室にグランドピアノを入れる予定があるのか。</p>
(事務局)	<p>現段階では未定だが、練習室はアップライトピアノになるのではないか。</p>
(山本委員)	<p>高価なものでなくて良いので、グランドピアノを備えていただきたい。</p>
(間瀬委員長)	<p>セミコンであっても、グランドピアノの方がクラシックをされる方にはよいだろう。</p>
(稲田委員)	<p>必要な事項はほとんど網羅されており、全部が実現できれば素晴らしい。しかし、実際には難しいと思うので、議論の中で、重要かつ優先させる部分を明確におこなねばならない。その判断基準となるのが、基本理念とその実現の方針の部分である。その部分と連携しながら検</p>

	<p>討しなければ、網羅させることができない。</p> <p>先ほど、「育む」という語感が上から目線だというご指摘があった。区民文化センターは、単に区民が育まれる場を提供するのか、それともホール自体が育む機能となるのかを考えると、言葉づかいや優先順位も変わってくる。</p> <p>倉庫の充実と、柔軟に対応できる施設、ということは良いと思う。</p> <p>(間瀬委員長) 施設構成の部分は、設計に求める事項を示している。つまり、この部分は設計者側に向けて書かれている。</p> <p>(砂田委員) ホール客席について、前回の委員会にて、急勾配の段床はあまり好ましくないという意見があった。例えば磯子区民文化センター、神奈川区民文化センター、鶴見区民文化センターなどは、客席勾配がきつい。音響を重視するならば、なるべくフラットな客席の方が良い。世界の有名なコンサートホールでも、1階席はほぼフラットな空間が多い。例えば、客席の下の空間を活用するなどならば別だが、そうでないならば考慮していただきたい。急な階段を上がったたり下がったりしなければならぬのは、バリアフリーとしてよろしくない。</p> <p>音楽ルームの100人程度が練習出来る場、おそらく200㎡程度の広さというのは、ぜひ実現をお願いしたい。また、天井高は可能な限り高い方がよい。</p> <p>(間瀬委員長) ある区民文化センターでは、客席勾配が緩やかなために舞台が見えにくいという苦情がはいる、それが新聞で取り上げられ騒動となった。観やすさとバリアフリーと音の響きのバランスは難しい。</p> <p>(砂田委員) 客席を千鳥に配置することで、鑑賞環境の対応ができないか。</p> <p>(間瀬委員長) 1,000人規模の劇場であれば千鳥配置とすることも考えられるが、300席程度のホールで千鳥配置にすると、</p>
--	--

	<p>通路が凸凹するため、客席数が少なくなる。</p> <p>急勾配では無い方がよいというご意見については、設計者に伝えて、考慮していただいた方がよいだろう。ただし、そのバランスを取るのは難しいだろう。</p> <p>(村上委員) 前回の委員会で出された意見を取り入れていただいている。区民文化センターに入った際の雰囲気は他の文化センターと同じではなく、ふわっとした空間を演出できるロビーが出来ればと思う。</p> <p>客席をフラットにする、というのは必要だと思う。</p> <p>(岡本委員) 事務局から会議室の機能統合の提案があったが、区民文化センターとしての機能を優先する上で、どの機能が統合できるかと考えたら、やはり会議室だった。会議をする場は近隣の地区センターなどがある。</p> <p>(木村委員) 岡本委員と同じで、限られたスペースの中では、会議室と情報コーナーの機能統合がやむを得ないのではないのか。区民文化センターとして、どの諸室を優先するかは重要である。近隣の地区センターの機能を踏まえた整備が大事ではないかと思う。</p> <p>また、客席のバリアフリーについて、先日ホールに行った際に、車椅子の方が決められた席でなく前方客席に着席したかったのか、車椅子から降りて客席後方から前方まで長い階段を下りていた。客席前方まで裏のスロープから案内できるなどあれば、より利用しやすいのではないか。</p> <p>(間瀬委員長) 車椅子席については、中央通路の客席横 1 列を全部外せるようにするなど増席対応できるが、前列は行きにくい。</p> <p>設計者が車椅子席を指定してしまうのはどうなのか、という議論はある。</p> <p>(砂川委員) みなとみらい小ホールは中央通路付近の客席が取り外しでき、車椅子の方と介助者が一緒に座れるようになった。</p>
--	---

	<p>ている。車椅子に関してはスロープを設けることで、スムーズに行くのではないか。</p> <p>やはり、客席は 300 席が基準となるのか。港北区は、横浜市の中で一番人口が多い区である。私たちの団体でも、観客が 250～300 人、出演者が 450 人程度なので、出演者が座る席がない。区民文化センターの中には、500～600 席を整備しているホールもある。鶴見区民文化センターは鶴見会館が使いなくなったので、多くの人が集まる事業ができなくなったと言われている方もいる。色々な立場の方がいるので、300 席よりも増やせないか。</p> <p>(間瀬委員長) 「可能な限り客席数を増やす」と記載されているので、事務局でも前向きに検討していることと思う。鶴見区民文化センターも、通常客席は約 550 席だが、舞台部分に座席を追加することで 650 席となる。だが、その場合は舞台の奥行きは通常よりも狭くなる。</p> <p>(平井委員) 情報コーナーの図書館との連携は、直接設計とは関係ないかもしれないが、答申の中に記載し、実現させてほしい。また、他の機能を優先すると会議室の整備までは難しいとのことだが、それは致し方無いと思う。</p> <p>前回の委員会にて、それぞれの諸室に名称があるが、その名称どおりの使い方に限らず、多様な活動ができる場としてほしいという意見が出された。設計面の考慮をするだけでなく、利用者に多様な使い方ができるということを広報し、利用を促進できればと思う。</p> <p>(大谷委員) 施設の内容については良いと思う。</p> <p>客席については砂田委員からも強く発言があったので重ねて言わないが、地域の文化拠点とすれば 300 席がスタートになると思うが、スタートではなく未来の港北区を考え、可能な限り客席を増やしていただきたい。</p> <p>また、「図書館との連携や貸出の取次ぎ」というのは港北図書館との協力と理解してよいか。会議室と情報コーナーとの機能統合を検討とあるが、情報コーナーには、文化関連の図書はある程度常備していただければと思</p>
--	---

	<p>う。取次などで機能を果たす場合もあるが、その場である程度情報を必要とする場合もある。</p> <p>あとは、この機能がうまく発揮できるよう、よい設計をお願いしたい。これが実現できれば満点に近いが、実現するのは簡単ではないだろう。ぜひお願いしたい。</p>
(和泉委員)	<p>これだけの機能を備えるには設計をかなり悩ますことになるだろう。この内容でよいと思う。</p>
(恵志委員)	<p>練習室のうち、ワークショップをできる場所が無いのではないか。今会議を行っている部屋(※約 48 m<sup>2</sup>)の 1.5 倍程度の広さがあると、15～20 名程度の身体表現的なワークショップができるだろう。自主事業で各種ワークショップを想定するのであれば、諸室が必要なのではないか。</p>
(砂田委員)	<p>ギャラリーに「ワークショップや練習にも利用できるよう」と書かれている。</p>
(間瀬委員長)	<p>ダンスなどのワークショップは音楽ルームを使用するのだろう。もしくは、市民が音楽ルームを利用できるよう、ギャラリーの一部を使うかだろう。スペースが取ればよいが、全体の割り振りの中でどうなるかが決まる。</p>
(木村委員)	<p>中途半端に小さい部屋ならば造らずに、空間を他に活用したほうが良いのではないか。</p>
(間瀬委員長)	<p>ギャラリーは一週間単位の利用が多いので、空きを上手く活用するというのはひとつの解決策になるかもしれない。</p>
(岡本委員)	<p>ギャラリーでワークショップなどが行えるためには床材等にも配慮が必要となる。</p>
(山本委員)	<p>設計者が決まったならば、事務局と共に既存の施設を</p>

	<p>回るとともに、緊密に連絡をとり設計状況を把握したほうがよい。一度設計が決まると変更は難しくなる。</p>
(木村委員)	<p>設計者が、このような意見交換の場に参加していただけるとよい。</p>
(事務局)	<p>設計者との密な連絡や打合せはもちろんのこと、答申書についての補足説明や他の区民文化センターの状況説明等も行う予定でいる。</p>
(山本委員)	<p>融通のきく設計者を選びたい。また、メンテナンスに配慮した設計とすることが求められる。意匠にこだわると、電球が高所に配置されるなどメンテナンスがしにくくなる場合もある。</p>
(砂川委員)	<p>女性トイレは一か所ではなく複数個所に分散させたほうが、バリアフリーの面でもよいだろう。</p>
(間瀬委員長)	<p>横浜市はみなとみらいホール建設の際に女性用トイレを工夫しているので、市としてノウハウを持っていると思う。みなとみらいホールのトイレは、ロビーにトイレの待機列が出ない、洗面台のない化粧直し専用の鏡台を設けるなどの工夫がされている。</p>
(稲田委員)	<p>神奈川芸術劇場 KAAT のトイレもそのような工夫がされている。</p>
(砂田委員)	<p>みなとみらいホールとサントリーホールのコントロールルームは使いづらいとのことだ。既存施設の不便な点等も参考にされたいのではないかと。</p>
(間瀬委員長)	<p>みなとみらいホールやサントリーホールは照明、音響などの各専門スタッフがいるが、区民文化センターの規模だとワンマンコントロールの可能性もある。また両ホールは音楽専門ホールである。オーケストラなどはテクニカルな照明を必要とされないことが多い。</p>



	<p>以前は、各ブースの卓でオペレーションをしなければならなかったが、現在はタブレット端末で出来るようになったので、客席で作業が出来るようになった。区民文化センターの実施設計に入る頃には、更に新たな技術が開発されているだろう。その時点の最新のものを導入すれば、かなりのスペックのホールになるだろう。</p> <p>機器等は更新が可能だが、トイレの数や舞台の広さなどは変更がきかないので、よく検討せねばならない。</p> <p>(砂田委員) 舞台の広さについてはどの程度になりそうか。</p> <p>(事務局) 未定だが、例えば緑区民文化センターは間口 10.98m × 奥行 8.9m 程度であり、舞台を張り出すことで拡張できる。</p> <p>(間瀬委員長) 区民文化センターでオーケストラ 3 管編成以上が乗る舞台面を確保するのは、施設全体のバランスから言って難しい。舞台を張り出すと客席が 230～240 席になるだろう。</p> <p>そのような場合は公会堂等の利用を促し、棲み分けをお願いしたい。これまで、目的によって使い分けをしてほしいというお願いをしてきた。</p> <p>(砂田委員) 各区に同じような客席数の区民文化センターを整備するのも疑問を感じる。また、ホール自体の稼働率は低くなるのではないか。</p> <p>(間瀬委員長) ランニングコストの問題もある。稼働率については、全国的にはホールの稼働率は高くない傾向にあるが、横浜市の区民文化センターは稼働率が高く、どこも 80～90%の稼働率となっている。</p> <p>(砂田委員) 私たちの活動は、規模から言えばみなとみらいホールの利用を薦められるのだろうが、そのホールがプロの場となってしまう市民の活動が利用しにくいという現状もあるということをお覚えておいていただければありがた</p>
--	--

	<p>い。</p> <p>(間瀬委員長) 概ね意見も出尽くしたところと思うので、事務局には、本日出た意見について次回までに答申(たたき台)に反映させる作業をお願いしたい。</p> <p>これで本日の審議事項は全て終了した。</p> <p><b>閉会</b></p>
<p>資 料</p> <p>・</p> <p>特 記 事 項</p>	<p>資料1 第3回横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会 席次表</p> <p>資料2 第2回横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会 会議録</p> <p>資料3 港北区 区民文化センターニュース第3号(案)</p> <p>資料4 横浜市港北区における区民文化センター基本構想 答申(たたき台)</p> <p>2 特記事項</p> <p>次回は、平成28年1月28日(木)に開催予定。</p> <p>場所は港北区役所特別会議室を予定。</p>